

農業の新しい技術

No.540 (平成17年8月)
分類コード 01-01
熊本県農政部

平坦地・山麓準平坦地域に適する 晩生の水稻奨励品種（候補）「西海248号」

農業研究センター 農産園芸研究所 作物研究室
担当者：春口 真一

研究のねらい

現在、平坦地域では「森のくまさん」、山麓準平坦地域では「ヒノヒカリ」等の良食味品種に作付が集中し、収穫作業や共同乾燥調整施設の運営に支障をきたしている。

また、「ヒノヒカリ」と組合せ可能な晩生の奨励品種の「ユメヒカリ」は現在、流通評価が低下しており、作付面積は当初の普及見込み面積に対して低いのが現状である。

このような状況から、「ヒノヒカリ」、「森のくまさん」と組合せ可能な「西海248号」を奨励品種に採用して普及を図る。

研究の成果

「西海248号」（交配組合わせ：南海127号（かりの舞）/西海230号（あきさやか）九州沖縄農業研究センター育成）は、「ユメヒカリ」に比べて次のような特性を有する。

- 1 出穂期は1～3日早く、成熟期は0～3日遅い“晩生の晩”である（表1）。
- 2 稈長は4cm、穂長は2cm程度長く、穂数はやや少ない（表1）。
- 3 耐倒伏性は“強”である（表1）。
- 4 収量性は明らかに優れる（表1、図1）。
- 5 玄米の粒大は“中”で、玄米千粒重は重く、品質は同じかやや劣る（表1）。
- 6 食味は、優れる（図2）。

普及上の留意点

- 1 熊本県の平坦地域、山麓準平坦地域において、「ユメヒカリ」、「レイハウ」の全部及び「ヒノヒカリ」の一部に替えて5000haの普及を予定している。
- 2 いもち病にはやや弱いので、県の防除基準を遵守する（表1）。
- 3 白葉枯病には弱いので、常発地での栽培を避ける（表1）。
- 4 登熟期間が長いため、成熟期判定に注意を要する。

[具体的データ]

表 1 生育・収量調査

| 試験 場所 | 品種名 系統名 | 出穂期 (月・日) | 成熟期 (月・日) | 稈長 (cm) | 穂長 (cm) | 穂数 (本/m ²) | 倒伏 程度 | 玄米重 (kg/a) | 千粒重 (g) | 品質 | いもち病 葉 穂 | 白葉 枯病 | |
|------------------|------------|--------------|--------------|------------|------------|---------------------------|----------|---------------|------------|-----|-------------|----------|-----|
| 農 産 園 芸 | 西海248号 | 9.05 | 10.24 | 85.8 | 21.2 | 333 | 0.2 | 68.0 | 22.3 | 3.2 | 0.0 | 0.2 | 0.0 |
| | ユメヒカリ | 9.07 | 10.22 | 82.9 | 19.5 | 345 | 0.5 | 63.6 | 21.8 | 2.9 | 0.0 | 0.1 | 0.0 |
| | 標準比 | -2日 | +2日 | 103 | 108 | 96 | | 107 | 102 | | | | |
| 球 磨 農 研 | 西海248号 | 8.30 | 10.16 | 79.7 | 20.0 | 331 | 0.0 | 66.9 | 22.7 | 3.7 | 1.1 | 1.1 | 0.4 |
| | 夢いずみ | 8.28 | 10.10 | 77.3 | 17.9 | 328 | 0.0 | 56.2 | 22.8 | 3.9 | 0.5 | 0.6 | 0.7 |
| | 標準比 | -2日 | +6日 | 103 | 112 | 101 | | 119 | 100 | | | | |

注 1) 2001~2004の平均値

注 2) 病害の発生程度は0 (無) ~ 5 (甚) で示す

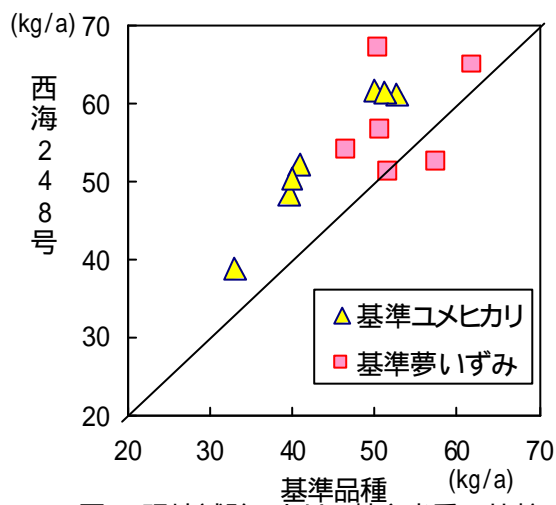


図 1 現地試験における精玄米重の比較 (2002~2003)



写真 1 サンプル比較 (左: ユメヒカリ 右: 西海248号)

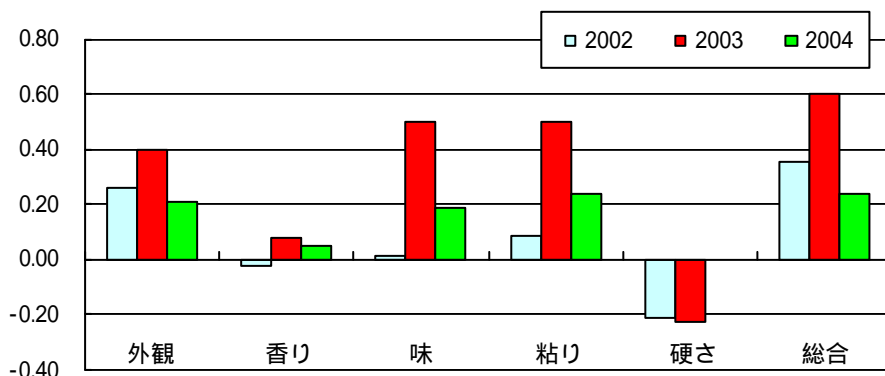


図 2 ユメヒカリを基準とした西海248号の食味官能比較

注) 農産園芸研究所産のサンプル